

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会①

研修会記録

第7号

令和6年 2月14日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

12月6日(水)

【会場】

都筑小学校

提案 諸橋 奈苗 先生(都筑小)

司会 高橋 淳平 先生(井土ヶ谷小)

記録 竹永 記士 先生(豊岡小)

1 授業者より

- 心の劇場(ジョン万次郎)
- 学習計画を立てた。



自分で調べてくる児童(主体的な姿)が増えた



教師側が子どもの資料に蓋然性を確かめられなかった。

○子どもの言葉の引き出し方について課題が残り、発言の仕方について指導をどうすればよいか。

2 グループ討議

- 協働的というより先生と子どもになっていたため、子どものつびやきを拾っていけるとよかった。
- 意図的な指名がよかった。子どもの見取りがよくできている様子が見られ、教師の問い返しによって深まりが出ていた。
- 資料から自分たちの経験を重ねて考えると多角的な考えの深まりがあったかもしれない。
- 子ども同士の質問や発言から授業づくりを進めていることがよかった。
- テーマが難しいものだったため、資料で津田梅子さんや政府の狙いにつながるものがあるとよかった。

3 全体の感想、質問

Q: 本時の資料提示の狙いと期待した子どもの姿

A: 資料(事実)から考えさせようという視点から明治政府が就学率を上げるために様々なことをしたことから学力が上がり、国力を上げることにつながった。また「なぜ勉強するのか」を考えることにもつながった。

講師の先生より

西部学校教育事務所指導主事室 主任指導主事 秦 秀治 先生

- 子どもの疑問から授業をつくっていく視点がよい。
- 学習の積み重ねができています。
- 明治の人々のあり方（他国との関係性など）から視点を絞るとよかった。
- 「30年」で就学率が上がったことに驚きをもてる資料があったり、「なぜ30年？」を重点的に扱えたりするとよかったかもしれない。
- 多くの子どもが意見を言える環境をつくれるように発言できなかった子の考えやつぶやきを大切にすることや子どもの自作の資料を使っていくとよい。

教育課程研究センター 開発部 教育課程調査官 小倉 勝登 先生

- 子どもが理由や根拠をもって話したり、掲示物を作っていたりする点が日々の授業づくりを大切にできていてよかった。
- どのような時代背景があるのか考える必要があり、そのためには人物をしっかりおさえなければいけない。←小学校では点と点で学ぶ、人物中心の学習。
- 本時では目標と問いと評価規準の一致を考えたときに、問いが「低かったのはなぜだろう」と狙い通りにいかない。
→最後のふり返りで「予想」で止まり、「国民の考え方が変わった」と出てくるが、「本当にそうなのか？」となってしまう。
→「学制」「近代国家」「民主主義」等の知識は定着していたのか。
→答えを求めるなら教科書から簡単に拾ってしまうので、問いがこれでよかったのか。
- 授業づくりをしていく上で、単元を通した子どもの姿→問い→めあて の順で組み立てて、本気の学習問題は、各時間の問いを整理し、並べてみて、一番のねらいを達成できるのか考察して設定するとよい。
- チャレンジすることは大切でその結果を分析したい。

文責 坂本 実（川和東小学校）

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会②

研修会記録

第7号

令和6年 2月14日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

12月6日(水)

【会場】

川和東小学校

提案 坂本 実 先生(川和東小)

司会 能登 清仁 先生(阿久和小)

記録 高木 琴子 先生(黒須田小)

・ 単元について

「明治政府」に視点をあて、じっくりと富岡製糸場を学習したかった。しかし、本時で扱った資料を、ロイロノートで繋がった状態で前時に児童に送ってしまい、思うようにいかなかった。その一方で、児童がその資料を各々で読み取り、教師側も児童一人ひとりに合わせて声掛けをすることができた。

・ 実態について

指導案検討時でも話題にしたが、授業中に児童に問いを出すと、「シーン...。」と静かになることが多い。しかし、本時では児童からの発言が多く出た。発言をしなかった児童は、よく考えて自分なりの考えをもってまとめることができた。

【質問と坂本先生による回答】

Q1. ロイロノートの資料について

A→C12の実態(読み・書き共に非常に困難)を考慮して、印やふりがなをつけている。C12の問いから、授業が進んでいった時間もあった。

Q2. 意図的指名

A→(C8について)富岡製糸場の工女を長期契約することにはデメリットがあることを捉えたかったことと、口火を切ってくれる児童であったため。

Q3. 本気の学習問題「3年」にこだわった理由、経緯

A→各地から工女が集まっている資料を見た際、「なぜ工女を集める必要があったのか。」という児童のつぶやきから、教師側があらかじめ用意していた資料「工女の募集要項」を提示した。すると児童から、「工女の待遇がいい。」「契約期間が短い。」「いや、契約期間が長い。」といったつぶやきが出たため、本気の学習問題に繋がった。

【協議会より】

・ 富岡製糸場を扱ったことが良かった。資料から読み取り、事実をもとに子どもたちが討論していた。

講師の先生より

大曾根小学校 校長 宮本 雅司 先生

- ・学習指導要領に沿った授業づくりが大切で、教師が学習指導要領から授業づくりの意図を、その後に子どもたちのイメージをもち、あっと驚くような資料を用意することが大切。

青山学院大学教育人間科学部 特任教授 柳下 則久 先生

- ・単元構想をする際、解決へのプロセスをウェビング等を通して、子どもたちは何が考えられるのかを想像する。（例：子どもたちのつぶやき「3年では養えない。」「工場だけど工場ではない。」から、「学校だ!」と出す など。）
- 「近代国家はなぜ発展しないといけなかったのか。」という学習問題について、「ヨーロッパから生糸の輸出を促される」「（ペリー、ノルマントン号事件、不平等条約→五箇条の御誓文により国会がつくられた。）不平等条約を改正させたい。」という
- ・子どもたちに先に資料を渡し、資料を根拠に探す活動を入れる。
 - ・軍事力を上げることが本当にこの先の日本にとって良いのか。戦いのない平和な国づくりを目指している、というところまで辿り着きたい。

文責 坂本 実（川和東小学校）